

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

期末配当金受領株主確定日 3月31日

中間配当金受領株主確定日 9月30日

定時株主総会開催日 毎年6月

公告の方法 電子公告により行う  
公告掲載URL <https://www.matuoka.co.jp/>  
(ただし、電子公告によることができない事故、  
その他やむを得ない事由が生じたときは、日  
本経済新聞に公告いたします。)

単元株式数 100株

株主名簿管理人  
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社  
大阪証券代行部  
〒541-8502  
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
電話 0120-094-777 (通話料無料)

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



株式会社マツオカコーポレーション  
広島県福山市宝町4番14号

## ホームページのご案内

当社ではホームページにて企業情報、事業紹介を随時開示しております。IR情報のサイトでは、経営情報、財務情報、決算短信等を掲載しております。

今夏

ホームページの  
全面リニューアルを予定しております。  
どうぞご期待ください。



URL

<https://www.matuoka.co.jp/>

当社グループは、地域貢献の一環として、地元スポーツチームである広島東洋カープとサンフレッチェ広島を応援しております。



# 第66期 株主通信

2021年4月1日～2022年3月31日

株式会社マツオカコーポレーション

証券コード：3611

## 多角的な生産拠点網への積極投資で成長 再加速に向けた土台を築く



株式会社マツオカコーポレーション  
代表取締役社長

松岡 典之

### 当期(2022年3月期)の市場環境、業績についてお聞かせください。

今年創業66年目を迎える当社グループは、主に日本の顧客向けに、アジア5か国で展開する工場において衣料品の縫製、素材の開発や加工を行っています。2021年5月には中期経営計画「ビジョン2025」を定め、ウィズコロナに対応する時期と位置づけた第1期(2022年3月期～2023年3月期)をスタートし、ベトナムとバングラデシュで新工場の建設を進め

てきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の長期化によるアパレル製品の需要低迷や、一部の工場で現地政府による操業制限などの影響を受けました。また、新工場の建設を進めている生産拠点における先行経費や生産性改革の取り組みに伴い生じたコストが利益を押し下げる要因として影響しました。

この結果、売上高は510億56百万円(前期比5.3%減)、経常利益は10億37百万円(同74.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は5億59百万円(同79.8%減)となりました。

### コロナ禍により繊維アパレル業界はどのように変化したのでしょうか。

当社グループの主な顧客であるアパレルメーカーは、コロナ禍の影響を受け、店舗を通常通り営業できずに苦戦を強いられました。また、国際物流においても世界的なコンテナ不足などにより計画通りにものを運べない状況が続いています。このため、縫製工場は生産調整や納期遅延への対応、生産性の向上をより厳しく求められるようになり、その変化についていけず経営を断念する先も増えてきたと聞いております。

今年に入ってから中国でコロナ感染者が増え、3月以降のロックダウンにより現地の工場が稼働できず、また国際物流も滞りました。このため衣料品の需要が復調しつつあるものの、生産が追い付かず、商品が納期通りに届かない状況となりました。これまでのように、欲しいときに欲しいものを欲しい量、調達できるということが当たり前ではなくなってきました。そうしたなかで、これまでの中国を中心とした生産体制やサプライチェーンのあり方が大きく見直されようとしています。

### そのような変化に対する貴社の優位性について教えてください。

繊維アパレル業界においては、小売業以上に生産側が苦しい状況にあります。縫製工場いわゆる「つくり場」がどんどん減っていて、顧客が「これだけの量の製品を、いつまでに欲しい」と言っても、それに応えられる工場がないという時代に入ってきています。そうしたなかで当社グループとしては、需要回復期を見越して、顧客のニーズに応えられるだけの生産体制をしっかりと準備させて頂くよう進めております。工場が立ち上がり、生産が軌道に乗る3年後には、当社グループの強みがいかに発揮できる状況が作れると考えています。ぜひご期待頂ければと思います。

### 中期経営計画における方針と具体的な取り組みについてお聞かせください。

第1期(2022年3月期～2023年3月期)は、第2期(2024年3月期～2026年3月期)のアパレル需要回復による成長再加速を見据えた安定的かつ効率的な生産体制を構築する時期と位置づけ、特にベトナムとバングラデシュにおける新工場の立ち上げに注力し

## トップメッセージ

ます。現在、当社グループにおける全生産量の約50%を中国が占めていますが、生産地やサプライチェーンのさらなる多元化を推進していくなかで、最終年度の2026年3月期までにその比率を中国約30%、それ以外の地域で約70%とすることを目指しています。

具体的な取り組みとしては、ベトナムは日本に近い立地を活かし、短納期の生産が求められるニーズに応えていきます。2022年1月に発効したRCEP(東アジア地域包括的経済連携)により、中国製の素材・資材をベトナムなどのRCEP参加国で縫製し、日本や中国に出荷することで関税メリットを享受できます。当社グループといたしましては、RCEPのコスト的メリットだけではなく、納品までの時間が比較的短いというベトナムの生産地的メリットを重視しています。RCEPをきっかけに関税メリットとあわせて顧客へも還元できると考えており、これからベトナムでの新工場建設によって生産基盤の強化を進めていく当社グループにとってRCEP発効は少なからず追い風になると捉えています。また、現在建設中の、アンナム第3期・第4期工場、タンチュオンの新工場が年内に完成する予定です。それぞれの工場の生産規模や特色に応じて、適切に生産アイテムを選択し、バランスよく生産できる体制を整えます。

バングラデシュは若干納期に余裕のあるワーキングウェアや欧州向けの生産拠点として位置づけており、現在、イシュワルディ第2期工場の2023年1月完成を

目指し準備を進めています。バングラデシュは豊富な労働力を確保できることが何よりの魅力で、この先10年を見据えると、最も可能性を秘めた国のひとつです。

### 今般、東証のプライム市場を選択されたことでESG、SDGsへの取り組みをさらに加速させていくことと思います。取り組みの現状をお聞かせください。

バングラデシュをはじめ当社グループが生産拠点を置く国々はいわゆる発展途上国であり、工場を立ち上げ安定的に運営することが、従業員の生活の維持向上や街の発展にもつながります。自然環境の保全についても、各工場における省電力や水の使用量削減、また新工場へのソーラーパネル設置などに取り組んでいます。今後は数値の見える化を進め、目標数値を戦略化して着実に達成していきたいと考えています。

また、プライム市場の企業に求められる高い水準のガバナンスを実行するために、経営監視機能の強化を図ってまいります。

### 今期(2023年3月期)の業績見通しについてお聞かせください。

当期(2022年3月期)は一部の工場が操業制限を受けた時期もありましたが、従業員皆がモチベー

ション高く業務改善に取り組んでくれたことを非常に頼もしく感じています。また、コロナ禍の厳しい状況を経験し、中堅幹部を中心として従業員ひとりひとりが着実に力をつけてきております。将来の成長に向け、人材育成にもしっかり取り組んでまいります。今期(2023年3月期)については、計画している生産体制の強化を着実に進め、回復しつつある需要をしっかりと受け止められるよう取り組むことで、中期経営計画第2期へ向けての土台作りを進めていきます。売上高は560億円(前期比9.7%増)、経常利益は12億円(同15.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は3億円(同46.3%減)を見込んでいます。

### 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

2022年3月期におきましては、コロナ禍の影響を大きく受けることになり、株主の皆様への期待に沿う十分な業績を上げることができませんでした。ただし、そうした緊急的な危機時に対応する様々な取り組みを重ねることで、今後に向けた課題解決のノウハウと自信を獲得することができました。一方で、こうした厳しいサプライチェーン環境のなかで、アパレルメーカーからの、欲しいときに欲しいものを欲しい量、調達したいという当たり前の要請がかなえられにくくなっており、アジア5か国に生産拠点を有する当社グループの強みが、逆



に浮かび上がってきた1年になったとも感じています。

2023年3月期におきましては、経営執行のさらなるスピードアップを図るため、組織をスリム化し、私自身がCOOを兼務いたします。また、ベトナム・バングラデシュでの生産能力の拡大を背景に、アフターコロナに向けて回復するアパレル需要をしっかりと受け止め、さらなる成長の軌道に乗せる所存です。

1990年に、当時、売上14億円だった松岡繊維工業は、日本を飛び出して中国に初めて自社工場を設立し、100億円の売上を目指しました。いま、夢が膨らんだあの時代と同じような気持ちでおります。引き続き、中期経営計画「ビジョン2025」の着実な実行と、さらにその先の成長に向けた基盤づくりに向けて力強く進んでいく決意です。またこれまで進めてきたサステナビリティに関する取り組みにつきましても、一層、深化拡大させていく所存です。今後とも皆様の変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 中期経営計画『ビジョン2025』—進捗と今後の重点取り組み

当社グループでは、2021年5月14日に、2021年度から2025年度を計画期間とする中期経営計画「ビジョン2025」を策定いたしました。計画期間のうち2021年度から2022年度の2年間はウイズコロナに対応し、次のステップアップのための準備期間とする第1期、2023年度からの3年間はアフターコロナにおける成長再加速を目指す第2期と位置づけております。2023年3月期においても、第2期につながる基礎固めの年として、しっかりとした経営基盤づくりに取り組んでまいります。

繰り返されるコロナ感染再拡大や地政学的リスクの顕在化により、生産地において「つくり場」が減少するとともに、生産地の見直しや代替地での生産を検討する顧客が増えるなか、当社グループでは顧客のニーズに柔軟に対応すべく、強みのひとつである幅広い生産

拠点網を活かし、生産体制の維持、強化に努めてまいりました。2023年3月期においても、引き続き顧客からのニーズが高まっているベトナム、バングラデシュでの生産能力拡大を図るべく新工場建設を推進し、さらなるサプライチェーンの多元化、強靱化を図ってまいります。

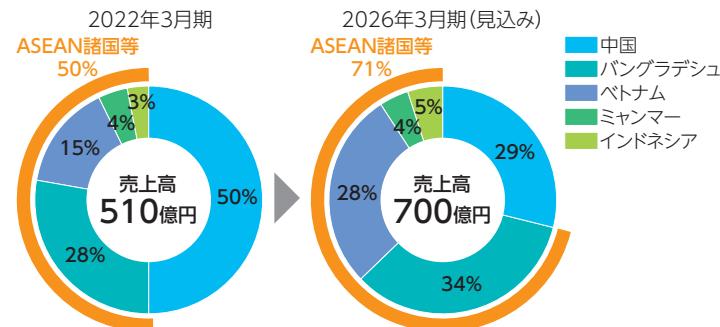
### サプライチェーンの更なる多元化推進と、「良質なものづくり」の一層の強化

- 顧客が欲しいときに欲しいものを欲しい量、お届けするための柔軟で強靱なサプライチェーンを整備
- ASEAN諸国等を中心とした多拠点展開で、コスト競争力の強化と地政学的リスクの低減を両立

新素材開発及び  
新たな製品開発への  
取組推進

主力OEM事業における  
営業力の強化

### ASEAN諸国等へのシフト(生産国別売上高)



(注)生産国別売上高は、当社グループの連結売上高を生産国別に集計したものです。

### ベトナム、バングラデシュでの生産能力拡大計画

ベトナム			
アンナム2期	2022年1月完成済	+312万枚/年	
アンナム3期	2022年11月完成予定	+312万枚/年	
タンチュオン	2022年11月完成予定	+143万枚/年	
アンナム4期	2022年12月完成予定	+312万枚/年	
バングラデシュ			
IMBD2期	2023年1月完成予定	+450万枚/年	

## 中期経営計画「ビジョン2025」—サステナビリティへの取り組み

当社グループの工場は全て海外にあり、それら工場では関連会社等を含めると約2万人の現地人材が働いております。当社グループでは、海外工場で働く従業員の生活と雇用の安定を支え、さらに健康管理指導や職業教育など、国連の定めるSDGsの第1から第6目標について、海外工場設立当初から実践してまいりました。この取り組みを徹底すべく、各工場の現場管理者および従業員に対して研修を実施するほか、工場内の掲示物で普及啓蒙する取り組みを継続的に実施しております。また、今後も、生産国ごとに自然環境に配慮した持続可能な工場運営を進め、中長期的な企業価値の向上を図ってまいります。



普及啓蒙のための掲示物

工場でのSDGs研修実施



食堂風景(朝食・昼食提供)

整備された職場環境

### これからの活動・取り組み

#### 省エネ工場の建設

新工場の照明LED化、  
省エネ型エアコンの標準装備



ベトナムのアンナム工場の第3期、第4期建設工事にソーラーパネル設置を織り込む

#### ソーラーパネルの増設

再生可能エネルギーの活用と  
CO<sub>2</sub>排出量削減

#### 排水処理・浄水設備の増設・維持

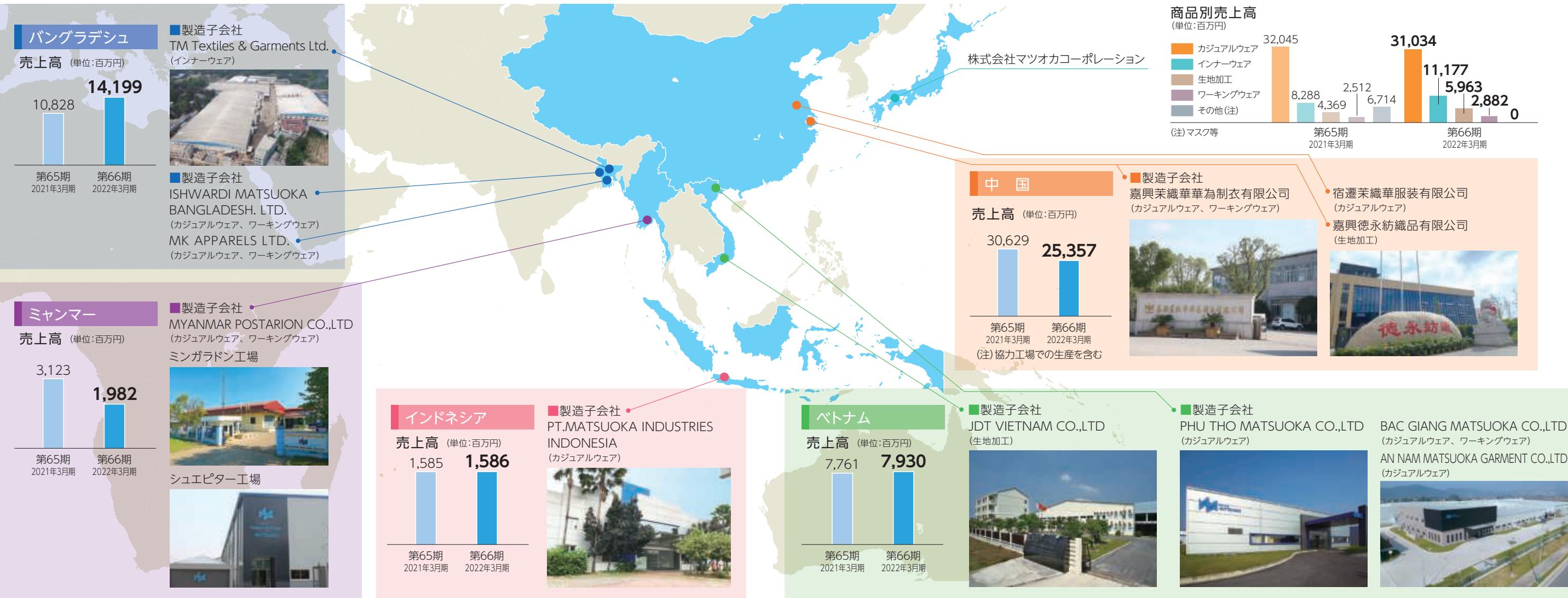
環境、生態系の保護と  
水質改善



# 事業の概況

## 生産国別売上高

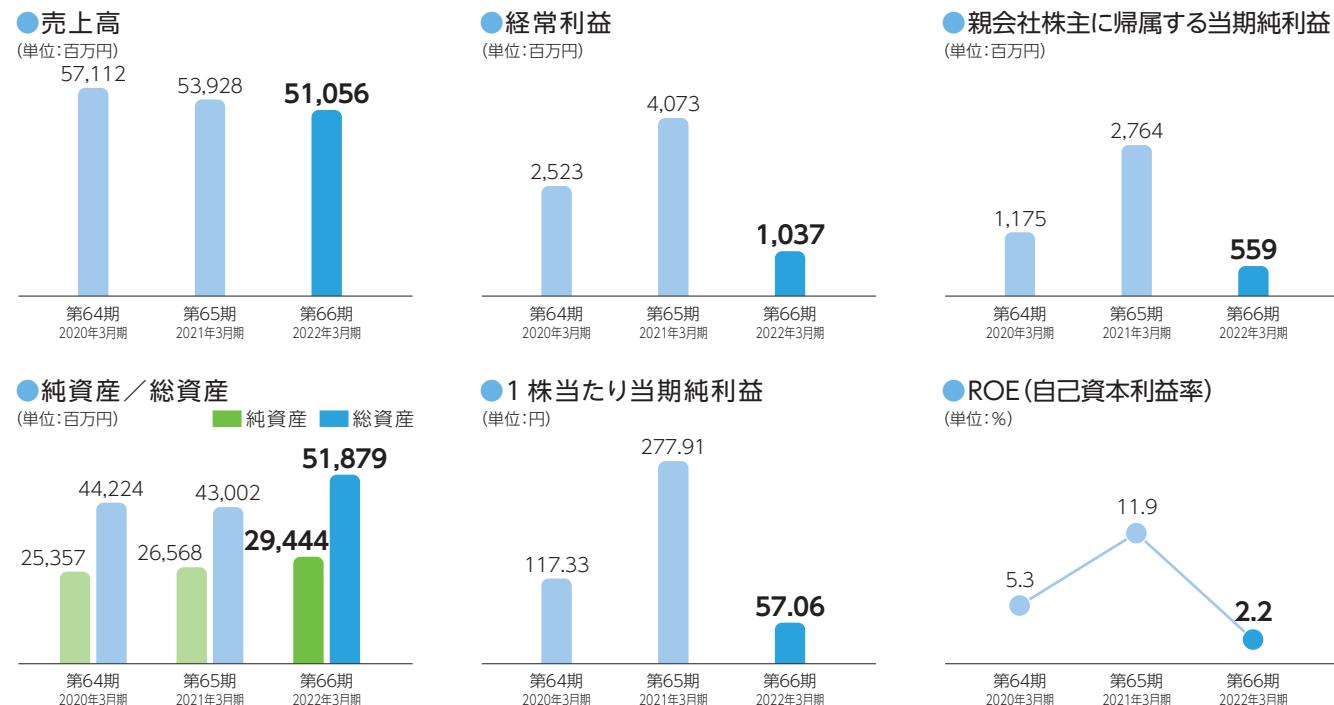
最適地生産を実現し、グローバルな事業拡大を目指してまいります。



(注)生産国別売上高は、当社グループの連結売上高を生産国別に集計したものです。

## 財務ハイライト

### 連結財務ハイライト



### 主要連結財務データ

	第64期 2020年3月期	第65期 2021年3月期	第66期 2022年3月期
売上高 (百万円)	57,112	53,928	51,056
経常利益 (百万円)	2,523	4,073	1,037
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	1,175	2,764	559
総資産 (百万円)	44,224	43,002	51,879
純資産 (百万円)	25,357	26,568	29,444
1株当たり当期純利益 (円)	117.33	277.91	57.06
ROE(自己資本利益率) (%)	5.3	11.9	2.2

## 会社情報・株式の状況

### 会社概要 2022年3月31日現在

設立 1956年4月  
 資本金 5億8,458万円  
 従業員数 16,434名(連結)  
 主な事業内容 アパレルOEM事業

### 役員一覧 2022年6月24日現在

代表取締役社長 松岡 典之  
 取締役 金子 浩幸  
 取締役 黒松 敦  
 社外取締役 江島 貴志  
 社外取締役 中川 康明  
 常勤監査役 栗山 文宏  
 常勤監査役 郷 英訓  
 社外監査役 岡本 耕一郎  
 社外監査役 松本 久幸

### 主な事業所

本社 広島県福山市宝町4番14号  
 東京事務所 東京都中央区日本橋馬喰町2丁目3番2号  
 セントピアビル5F・7F・10F

### 主な子会社

中国 茉織華実業(集団)有限公司  
 上海茉織華服飾有限公司  
 浙江茉織華貿易有限公司  
 嘉興茉織華華為制衣有限公司  
 宿遷茉織華服装有限公司  
 嘉興德永紡織品有限公司  
 TM Textiles & Garments (HK) Ltd.  
 ミャンマー MYANMAR POSTARION CO. LTD  
 バングラデシュ MK APPARELS LTD.  
 TM Textiles & Garments Ltd.  
 ISHWARDI MATSUOKA BANGLADESH.LTD.  
 ベトナム PHU THO MATSUOKA CO.,LTD  
 BAC GIANG MATSUOKA CO.,LTD  
 AN NAM MATSUOKA GARMENT CO.,LTD  
 JDT VIETNAM CO.,LTD  
 インドネシア PT.MATSUOKA INDUSTRIES INDONESIA

### 株式の状況 2022年3月31日現在

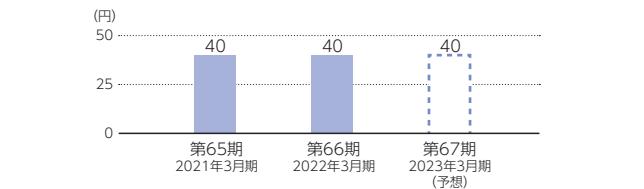
発行可能株式総数 38,500,000株  
 発行済株式総数 10,081,900株  
 株主数 2,402名

### 大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
松岡 典之	1,541	15.72
合同会社マツオカカンパニー	1,475	15.04
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	864	8.82
株式会社広島銀行	420	4.28
BNYMSANV AS AGENT/CLIENTS LUX UCITS NON TREATY 1	400	4.08
合同会社パインヒルコーポレーション	300	3.06
日本生命保険相互会社	250	2.55
神原汽船株式会社	250	2.55
倉敷紡績株式会社	250	2.55
三菱UFJキャピタル株式会社	225	2.29

(注) 1. 千株未満は切り捨てて表示しております。  
 2. 当社は、自己株式279,837株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

### 配当金の推移



### 株式分布状況 2022年3月31日現在

